

令和6年度日本大学商学部総合型選抜小論文事前課題

〔 課題内容 〕

近年、少子高齢化に伴い、「買い物弱者」（ないしは「買い物難民」）の問題が注目を浴びています。生活に必要な食料品や日用品を日常的に購入することが難しくなる住民（特に高齢者）が増えているのです。その原因の1つとして、地域において生活必需品を日常的に購入できる環境、すなわち「買い物環境」の悪化があります。

地域を1つ選び、その地域の買い物環境を調査して、その地域における買い物弱者発生の可能性とその対策について、あなたの意見を述べてください。

論文の検討と作成において、以下の指示に従ってください。

- ここでの「地域」とは、一定数の人口を有する市区町村または市区町村よりも小さな地域を意味します。したがって、町丁（〇〇町〇丁目）、住宅団地（〇〇団地）、集落（〇〇集落）なども含みます。ただし、後述する人口統計調査の利用が可能であることが条件となります。
- 選択した地域の名称と特徴について必ず明示してください。買い物弱者というと過疎地域をイメージしがちですが、都市部や郊外にも買い物弱者は発生しています。ご自宅や学校から遠くない、調査が可能な範囲で対象地域を選んでください。「この住民は買い物が大変そう」と思える地域を候補として考えてみてください。また、農林水産政策研究所が公開している、地域別の食料品アクセス困難人口を地図化した「食料品アクセスマップ」(https://www.maff.go.jp/primaff/seika/fsc/faccess/a_map.html)を参照してみるのも良いかもしれません。現在において買い物環境が悪くない地域でも、住民の年齢層が高くなるなどの変化があれば、将来悪化しそうな地域でもかまいません。
- 「買い物弱者」の定義を調べて、必ず示してください。それに合わせて、買い物弱者が発生する要因や背景についても調べて知ることができれば、分析と考察に生かせるはずです。
- 統計を用いた調査を行って、その結果を表や図（グラフ）の形で示してください。地域の高齢者人口は最低限調べてください（インターネットで入手可能）。地域別の各種統計が「地図でみる統計（jSTATMAP）」(<https://www.e-stat.go.jp/gis>)で確認できます。「地図でみる統計」では、統計地図も作成可能です（後で作成図例を示します）。余裕があれば、積極的に活用してください。また、調査年度が古いと数値が現況と一致していない可能性があるので、注意してください。

さらに「e-Stat」(<https://www.e-stat.go.jp/>)では、地域別の「飲食料品小売業」の事業者数や地域住民の「利用交通手段」などの関連統計が入手可能です。「e-Stat」で、都道府県名＋欲しい情報（例：「飲食料品小売業」）＋「町丁」で検索してみてください。余裕がある場合、試してみてください。

- 地図を使った地域の考察を行なってください。使用する地図はインターネットの地図で問題ありません。買い物環境は地形や交通状況などから大きな影響を受けます。少なくとも、地域の住民が利用できる公共交通機関と食料品店舗の所在を必ず確認してください。
- 地域を実際に訪問した調査（フィールド調査）を必ず行い、その結果を示してください。統計や地図からでは把握できない事実がたくさんあるはずです。例えば、何らかの問題があって、最寄りの食料品店を利用する住民が少ないかもしれません。

具体的な方法として、実際に買い物を体験する方法、買い物環境に関する対象（商業施設や交通手段など）の観察を行なう方法、現地の住民や関係者にヒアリング調査を行なう方法などがあります。必要に応じて適宜使い分けてください。

フィールド調査においては以下の点に留意してください。

- 事故（特に交通事故や道迷い）に合わないよう注意を怠らないでください。また、屋外調査中は、熱中症等にならないように、水分補給や体調管理に常に心がけてください。
- 悪天候時や夜間には調査を実施しないでください。日程に余裕をもって調査を計画してください。
- 訪問調査の日時と場所を、事前に保護者に伝えておいてください。
- 許可なく、一般に開放されていない建造物や土地には入らないでください。
- 数枚程度（合計で1ページ以内に収まる程度）であれば、撮影した写真を論文で使用することを許可します。ただし、写真撮影の対象が人物の場合は、本人に撮影許可を得てください。また、私有地（店舗内など）での撮影の場合は、管理者から撮影許可を得てください。
- 買い物弱者の調査として多数の地域住民を対象としたアンケート調査が行われることが多いですが、住民に負担をかけることになるので、今回の課題ではアンケート調査の実施は控えてください。少数の住民を対象としたヒアリング調査の実施は許可します。ヒアリング調査は、対象者に調査目的を説明したうえで、許可を得てから実施してください。

- 買い物環境がどのように変化したかという歴史的な視点があると、考察がしやすいかもしれません。大規模店舗の出店規制が緩和された1990年代以降、食料品を扱う小売事業者の数は全国的に減少の傾向にあります。過去の買い物環境については、地域に関する文献、地域住民へのヒアリング、過去の統計資料などから把握できます。
- 買い物環境は地域住民の目線で考察してください。買い物環境は、最寄り食料品小売店舗との距離と利用できる交通手段に大きく依存します。そして、その評価は住民の買い物に対する身体的負担とコスト負担の2つの視点で行なわれます。この2つの負担は、住民によって意味が異なるので注意してください。例えば、高齢者であれば、身体的負担とコスト負担は、他の年代よりも重く感じるかもしれません。人口統計調査に基づいて地域住民の特徴を把握したうえで、地域の買い物環境を考察してください。
- 買い物環境の考察に基づいて、地域の買い物弱者発生の可能性について論じてく

ださい。現在だけでなく、将来について論じてかまいません。具体的な人数を計算することは難しいと思います。それよりも、どのような住民が、いつごろから、どのような理由で、買い物弱者になっている（あるいは買い物弱者になる可能性がある）かを調査結果に基づいて論じてください。

- さらに、地域内の買い物環境を改善し、買い物弱者を抑制する対策も提案してください。買い物弱者向けの施策の種類は多数ありますが、調査結果に基づき、その地域の特性に即した対策を考えてください。買い物弱者を支援する対策はもちろん、将来の買い物弱者発生を予防する対策でもかまいません。

対策は、移動販売、乗合タクシー、店舗送迎バス、宅配サービスなど、既存のものでかまいません。ただし、インターネット通販の利用については、問題視する指摘は少なくありません（問題点については自分で調べてみてください）。インターネット通販の利用を対策として選ぶのであれば、問題点を補う手立てが別途必要になります。

対策を考える際に参考になりそうな文献をあげておきます。全部読む必要はありません。自分が使えそうと思った文献を用いてください。

- 経済産業省・アーサー・D・リトル・ジャパン（2015）「買い物弱者応援マニュアル ver3.0」
https://www.meti.go.jp/policy/economy/distribution/150427_manual_2.pdf
- アーサー・D・リトル・ジャパン（2015）「買い物弱者・フードデザート問題等の現状及び今後の対策のあり方に関する調査報告書」
https://www.meti.go.jp/policy/economy/distribution/150427_report_2.pdf
- 経済産業省・mitoriz（2023）「買い物弱者支援事業者事例集」
<https://www.meti.go.jp/policy/economy/distribution/houkokusyo.pdf>
- 流通経済研究所（2017）「買い物困難者対策スタートブック」
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/eat/attach/pdf/torikumi_kata-1.pdf
- 日本食農連携機構・流通経済研究所（2012）「農山漁村に向けた買い物弱者支援マニュアル」
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/eat/pdf/kaimono_sien.pdf
- 農林水産省「地域に応じた各地での買い物支援の取組」
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/eat/access_jirei.html

- 買い物弱者や買い物環境をテーマにした論文が多数あります。その中には特定地域の調査に基づく論文もあります。適宜、参照してください。「J-Stage」(<https://www.jstage.jst.go.jp/>)で検索すれば、閲覧できます。

参考にした文献は必ず明示してください。表記方法は後述します。参考文献を適切に表記していることも評価要素となります。

- 小論文のタイトルは、内容に即したものを自分で考えて付けてください。ただし、調査対象とした地域名を必ず入れてください。

〔 第 1 次選考 〕

課題について 2,500 字以上 3,000 字以内（引用文献一覧の記述図表を除く）で小論文を執筆し、提出しなさい。なお、第 1 次選考に合格した場合、第 2 次選考では小論文の内容を基にプレゼンテーションを実施するので、プレゼンテーションも念頭に置いて小論文を執筆すること。

〔 第 2 次選考 〕

小論文に基づき、本学部が指定する期日までに、プレゼンテーション用資料を作成し、令和 5 年 10 月 14 日（土）の本学部が指定する時間にプレゼンテーションを実施しなさい。

なお、プレゼンテーション用資料の提出締切日及び第 2 次選考の集合時間等については、第 1 次選考の合格者に対してのみ通知する。

〔 プレゼンテーションの概要 〕

プレゼンテーションは面接（対面）方式を予定している。プレゼンテーションソフトウェアは、「Microsoft PowerPoint」あるいは「Google スライド」に限定し、プレゼンテーション最長 10 分、質疑応答 10 分以内、合計 20 分以内を予定している。プレゼンテーションのファイルは期限までの事前提出が必要であり、提出後の変更は誤字修正を含めて認められない。

〔 小論文の執筆、提出 〕

小論文を執筆するに当たり、買い物弱者について、インターネットのみならず、書籍や論文を読んで、十分に調査を実施すること。小論文は、以下の要領に従い執筆し、本学部の出願締切日までにその他の出願書類と共に提出を行うこと（郵送必着）。

- 原則として以下で指定する様式に従い、ワープロソフトウェアを用いて執筆する。ただし、特段の理由がある場合には、本学部の事前の了解を得て変更できる。
- 使用するワープロソフトウェアは任意とするが、「Microsoft Word」（バージョンは問わない）を推奨する。
- 印刷した小論文の上に指定表紙（本要領最終ページ）を重ね、上部 2 カ所をホチキス留めする。表紙の指定事項は手書きで記入する。以下の説明では表紙はページ数に含めないで注意すること。

様式等

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 用紙のサイズは A4 縦様式、横書きとする。各ページの余白は上下左右とも 30mm とする。○ 各ページは 35 行の設定を基本とし、1 行につき 40 文字の設定とする。以上は、ワープロソフトウェアで設定がなされていればよい。印刷結果としての行数と一致しなくても良い。○ 小論文のタイトルを 1 ページ目の 1 行目に中央揃えで記す。タイトルのフォントはゴシック |
|--|

ック 14 ポイントとする。

- 受験者氏名を、タイトルの次の行に右揃えで記す。フォントは明朝体 10.5 ポイントとする。その後、1 行空けて左揃えで本文を始める。
- 目次の記載は必要としないが、文章を章や節で区分けして構成することを許可する。章や節の見出しのフォントはゴシック 10.5 ポイントとする。章や節の見出しの前は 1 行空けること。
- 本文のフォントは明朝体 10.5 ポイントを基本とする。
- ページ番号を各ページの下段（フッター）の中央に付す。表紙はページ数に含まれない。
- 各ページの左下の余白に、受験者氏名を記すこと。フッター機能を使用すると良い。
- 原則として、文体は、常体（文末が「・・・である。」「・・・だ。」）を用いて、敬体（文末が「・・・です。」「・・・ます」）は避ける。
- 文字数はワープロソフトウェアの文字カウント機能で確認すること。

図表

- 図表は必ず自分で作成すること。図表はワープロソフトの機能で作成しても、表計算ソフトや地図情報システム（「地図でみる統計」を含む）等で作成したものを貼り付けても良い。
- 写真の掲載は図として扱う。著作権者の権利を侵害する、他者が撮影した写真の利用は控えること。
- 本文で必ず図表について言及すること。図表は言及する場所の近いところに配置すること。
- 図表の出典やデータ出所は図表の下に付すこと。フォントは明朝体 9 ポイントとする。出典のない図表の場合は未記入で良い。
- 図表の上には必ず題名を付すこと。図表が複数になる場合、題名の前に通し番号で図番号あるいは表番号を付す。図表の番号と題目のフォントは、ゴシック体 10.5 ポイント、中央揃えとする。
- 図表部分（出典や題名も含む）の前後は 1 行ずつ空ける。
- 図表の例を以下に示す。

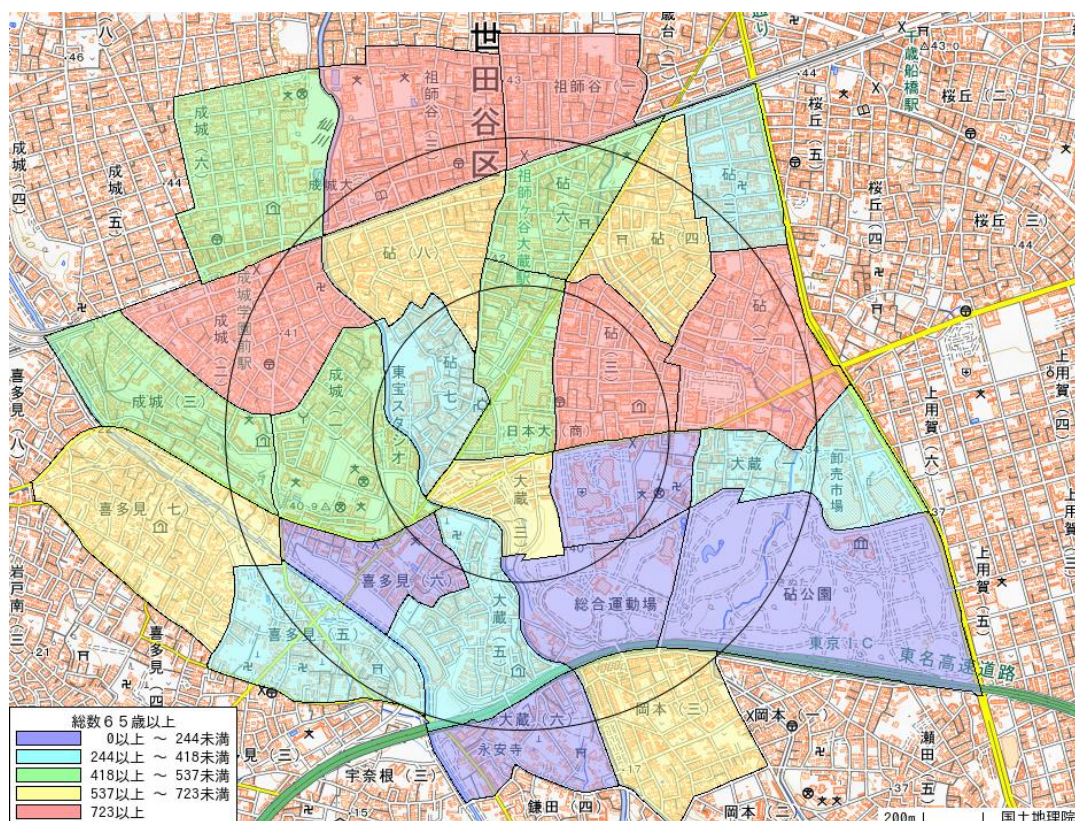
図表の作成例

表 1 世田谷区大蔵地区の年齢別人口構成比

地域	15 歳未満	15～64 歳	65 歳以上	75 歳以上
大蔵一丁目	14.4%	64.6%	18.8%	9.3%
大蔵二丁目	15.7%	73.5%	10.3%	4.4%
大蔵三丁目	1.4%	37.7%	60.8%	46.7%
大蔵四丁目	10.2%	42.6%	47.2%	39.2%
大蔵五丁目	17.7%	65.5%	16.7%	8.2%
大蔵六丁目	17.4%	65.3%	17.4%	7.9%

データ出所：「令和 2 年国勢調査」

図1 日本大学商学部周辺の町丁目別 65 歳以上人口



注：内円は半径 500m, 外円は半径 1km であり、いずれも中心点は日本大学商学部キャンパスである。

データ出所：「令和 2 年国勢調査」

図出所：「地図でみる統計」を用いて作成

引用・参考文献

- インターネット、書籍、論文に記載されている他人の調査結果や意見や提案を、あたかも自分が行ったことのように記述することは、盗用となるので、必ず適切な引用の手続き（引用箇所の明示と、書籍や論文の場合には、著者、発行年、書籍や論文の名称、発行所、該当ページ数等、インターネットの場合には、著者、サイトの名称、発行所、URL、閲覧日等の記述）を行い、参考文献一覧を記載すること。

- 参考文献一覧は、ページを変えて、最後に記述する。参考文献一覧の後には何も記述しない。参考文献一覧の記載例は以下参照のこと。

書籍の場合・・・日大太郎（2021）『日本大学商学部』、砧書店、10-20 ページ。

論文の場合・・・商学一郎（2021）「商学部」『日本大学』第 5 号、日本出版社、20-30 ページ。

インターネットの場合・・・日本大学商学部「入学者選抜情報」、<https://www.bus.nihon-u.ac.jp/nyushi/>、2023 年 6 月 7 日最終閲覧。

新聞の場合・・・日本新聞「商学部について」『日本新聞』、2022 年 8 月 12 日朝刊、第 1 面。

公的機関の公表データの場合（インターネットで入手した場合にはインターネットの場合に準じること）・・・文部科学省（2022）「大学調査データ」。

印刷・提出

本要領に従い作成した小論文を A4 用紙に片面印刷（両面印刷は不可）し、指定表紙（本要領最終ページ）を重ね、上部 2 カ所をホチキス留めしたものを本学部の出願締切日までにその他の出願書類と共に提出を行う（郵送必着）。印刷にあたっては、カラー印刷あるいはモノクロ印刷の選択は任意とする。

また、出願書類の提出後、本学部の出願締切日までに、本学部教務課入試係（bus.nyushi.kakari@nihon-u.ac.jp）宛に小論文の電子ファイル（ワープロソフトウェアのファイルのみ、指定用紙は不要）を添付にて提出すること。メール標題「総合型選抜小論文提出」、メール本文「高等学校名称 漢字氏名」、ファイル名称「高等学校等名称 漢字氏名（例：日本大学高等学校 日大太郎）」とすること。

郵送で提出された小論文と電子ファイルの文章内容が異なる場合には、無効とする。

選考の基本的な考え方

日本大学商学部での学修を通じて日本大学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」ことができる意欲・能力・知識等を有する者を小論文・プレゼンテーションを通じて選考し、入学を許可する。

「自主創造」については、下記の URL を参照すること。

https://www.nihon-u.ac.jp/education_strategy/charter/about/

特記事項

小論文の執筆、プレゼンテーション用資料の作成にあたり、教諭、保護者等、受験者本人以外の者が受験者に助言することは妨げないが、過度な助言を受けたと認められる場合、あるいは受験者本人以外の者が執筆、作成したと認められる場合には不合格とする。プレゼンテーションの質疑応答でその点を確認することがある。

また、日本大学の「生成 AI ツールの使用について」（<https://www.nihon-u.ac.jp/blog/2023/05/13914/>）に準拠するのであれば、アイデアの検討に生成 AI を活用することを妨げない。しかしながら、小論文の執筆やプレゼンテーション用資料作成に当たり、生成 AI を用いたと認められる場合には不合格とする。

なお、本年度より、電子ファイルでの提出も求めているが、引用に該当しない剽窃、生成 AI による小論文の作成を確認する点に留意されたい。

その他

その他不明な点は事前に問い合わせること。ただし、データや資料の入手方法、対象地域の選択、調査方法論、地理情報システムの活用方法などといった課題の解答内容に関連する質問には答えられないので、注意されたい。

2023.06.09 公開

総合型選抜に関する問い合わせ先

日本大学商学部教務課入試係

電話：03-3749-6735

mail：bus.nyushi@nihon-u.ac.jp

令和 6 年度 日本大学商学部総合型選抜

小論文（事前課題） 指定表紙

印刷して小論文の表紙とし、ホッチキス止めして提出してください。

受験番号					志望 学科 (〇で囲む)	商業学科 経営学科 会計学科	フリガナ 氏名	

受験番号欄は、大学で記入します。空欄にしてください。

小論文の タイトル	
--------------	--

文字数 (5千字以内)		ページ数 (表紙を除く)	
----------------	--	-----------------	--

注：文字数はワープロソフトウェアの文字カウント機能でご確認ください。

事務局記入欄（記入しないでください）

1	2	3

タイトル〇〇〇〇

受験者氏名○○○

見出し〇〇〇

本文○○
○○○
○○○○。

A horizontal number line starting at 0 and ending at 100. Major tick marks are labeled every 10 units (0, 10, 20, 30, 40, 50, 60, 70, 80, 90, 100). Minor tick marks are present between the major ones, representing every 1 unit. The number 100 is written at the far right end of the line.

表1 世田谷区大蔵地区の年齢別人口構成比

地域	15 歳未満	15～64 歳	65 歳以上	75 歳以上
大蔵一丁目	14.4%	64.6%	18.8%	9.3%
大蔵二丁目	15.7%	73.5%	10.3%	4.4%
大蔵三丁目	1.4%	37.7%	60.8%	46.7%
大蔵四丁目	10.2%	42.6%	47.2%	39.2%
大蔵五丁目	17.7%	65.5%	16.7%	8.2%
大蔵六丁目	17.4%	65.3%	17.4%	7.9%

データ出所：「令和2年国勢調査」

参考文献一覧

日大太郎（2021）『日本大学商学部』、砧書店、10-20 ページ。